SDGsとは

SDGsは、Sustainable Development Goalsの略で、持続可能な開発目標という意味です。
2016年から2030年までに達成すべき”世界共通の目標”として国連に加盟する193カ国によって採択され、17の目標とそれらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。
前身となるMDGs（ミレニアム開発目標）での課題を受け、途上国だけでなく先進国も含めた、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」を掲げています。

保育園に通う年齢からSDGsの課題を考えて、体験を通じて学ぶことで、子どもたちがこれからの時代に不可欠なSDGsの本質を当事者として理解し、持続可能な社会を築いていく基盤となる考え方を養うことにつながると考えます。
また、子どもたち自身にとっても幼少期から多様性やジェンダーといったSDGs課題を意識することで、物事に対する広い視野や人への接し方などポジティブな影響をもたらすとも考えられます。

土古おおぞら保育園での取り組み

令和4年度から二カ月に一回の会を行い、子どもたちにSDGsが身近な存在になるように取り組んでいきたいと考えています。

2,餓死をゼロに

食育を通して、食材を身近に感じ、食事に興味が持てるように工夫しています。
食事の残量を減らすために登園人数の確認を事前にしています。

3,すべての人に福祉と健康を

毎月身体測定を行っており、元気に成長しているか確認をしています。また、手洗いやうがいの指導を行っており、生活習慣が身に付くようにしています。

6,安全な水とトイレを世界中に

調理室に浄水器を設置しており、より安全な水を使用しています。また、水の無駄遣いが減るように伝えています。

11,住み続けられるまちづくりを

就学前の親子を招く“いっしょにあそぼう会”、地域の方をお招きし、一緒に出店屋さんごっこ等をする“地域の方とあそぼう会”を開催しています。

12,つくる責任つかう責任

制作活動の際に、保育園や家庭で出た廃材を持ってきてもらうなど、普段の遊びの中からものを大切にする心を育んでいます。